日立市立坂本小学校

Ⅰ　実践

1　研究主題

思いやりの心をもち、互いに認め合い、助け合うことのできる児童の育成

（1）主題設定の理由

本校は、「心豊かでに健やかで、たくましく行動できる児童の育成

ーかしこく　やさしく たくましくー」を教育目標として掲げている。

本校の児童は、元気で明るく素直であるが、反面、相手を思いやる気持ちに欠ける行動や、自己中心的な言動によるトラブルが見られる。また、特別に支援を必要とする児童も多く、これらの児童が学級の中で居心地よくスムーズに学校生活を送れるよう配慮していくことも必要である。

そこで、学校教育活動全体を通して、様々な体験的な活動を取り入れ、相手の立場を思いやれる心や助け合う心を育てると共に、『自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること』ができる児童を育成したいと考え、本主題を設定した。

（2）研究の内容

ア　人権教育の環境づくり（人権学習に親しむ機会の提供）

イ　豊かな体験活動　　（体験的な活動の導入）

2　実践内容

（1）人権教育の環境づくり

ア　人権・道徳コーナーの設置

全児童の目にふれる機会の多い昇降口の横通路に人権コーナーを設置している。人権メッセージの優秀作品やポスターを掲示したり、心に響く詩を掲示したりすることで、人権への啓発の場としている。

各学級では、一人一人を大切にし、互いを認め合える学級を目指し、一人一人のよいところや素晴らしいところ、友達に助けられたことやしてもらってうれしかったことなどを記入したカード（ありがとうカード）等を人権・道徳コーナーに掲示している。各学年で工夫して作成されており、人権週間（８月３０日～９月１４日）には人権に関するビデオを視聴して書かれた人権メッセージが掲示されるなど、機会あるごとに児童のメッセージが貼り重ねられている。また、人権・道徳コーナーに掲示された様々なメッセージは、生徒指導だより「やまびこ」の中で、「思いやりの輪を広げよう　キャンペーン」の一環として保護者にも随時紹介されている。

イ　人権啓発標語の作成

３年生が、日常生活を見つめて、よりよい生活を送るためにはどんなことを頑張ればよいか、どんなことに気をつけたらよいか、大切なことは何かを考え、標語作りを行った。作った標語は、３年生が生活している校舎３階に掲示された。日々この標語を見ながら自分の生活を見直している。

ウ　いじめ撲滅キャンペーン

児童会が中心となり、「いじめ撲滅キャンペーン」を実施した。３年生以上の各学級でいじめ撲滅のスローガンが話し合われ、９月２０日（木）に開かれた代表委員会で、６年２組が提案したスローガンに決定された。

> いじめると　自分も相手も　きずつくよ
> 一言で　気持ちが変わる　思いやり

このスローガンが書かれた横断幕は、正門横のフェンスに掲げられ、児童のいじめ問題への意識を高めている。

人権コーナー（昇降口横）

道徳・人権コーナー（学級）

人権標語の掲示

（２）豊かな体験活動

ア　異学年集団との交流活動

６年生は１年生が入学してからの１ヶ月、兄弟学級の１年生の教室を訪ね、朝の時間に読み聞かせをしたり､休み時間に一緒に遊んだり声をかけたりと１年生と積極的に関わり、１年生の楽しい学校生活を支えた。

生活科では、４月に２年生が１年生の歓迎集会を開き、学校紹介をしたり一緒にゲームを楽しんだりした。また、１年生が２～６年の縦割り学級を「秋フェスタ」に招待した。休み時間にもかかわらず、多くの児童が参加し、１年生の「秋フェスタ」を盛り上げた。

兄弟学級（１年生と６年生、２年生と５年生　３年生と４年生）で交流給食を実施し、会食することにより、交流を深めた。

異学年集団との交流活動を通して、上級生は下級生の面倒をみることで思いやりの心が育ち、下級生は、上級生に親しみをもって接することができた。また、学年を越え誰とでも仲良く活動することの楽しさを学ぶことができた。

イ　地域高齢者との交流

総合的な学習の時間に、ブラインド体験や車椅子体験、手話体験や高齢者疑似体験を積んできた４年生児童が、地域の高齢者とふれあい会食会を実施した。社会福祉協議会との連絡を取り合い、坂本地区に住む一人暮らしの高齢者の方々を招いて音楽やダンスを発表したり、一緒にゲームや会食をしたりと楽しく交流することができた。会食では、お年寄りと児童が笑顔で会話を弾ませている様子が見られた。

地域の敬老会に参加し､長寿を祝って､５・６年生の合奏団の児童が器楽合奏を披露し、１年生児童が作文発表をした。

ウ　外国人との交流　～ワールドキャラバン～

外国人や外国の文化にふれる機会として、３・４年生が「ワールドキャラバン」を実施し、外国への理解を深めている。

エ　さわやかマナーアップ週間　～あいさつ運動～

「場に応じたあいさつのきちんとできる、坂本の子」の実現を目指して毎月あいさつ運動を展開している。気持ちのよいあいさつができるようにすると共に、あいさつを通して好ましい人間関係をつくることをねらいとしている。毎月、担当学年の学級が、晴れの日は正門前で、雨の日は昇降口付近で、７：５０～８：０５まで、朝のあいさつを呼びかけた。期間中は、校内放送での呼びかけも行われ、各学級では、朝や帰りの会、道徳、学級活動の時間を利用して、重点的に場に応じたあいさつの指導を行った。

オ　福祉委員会による募金活動とペットボトルキャップ集め

福祉委員会が中心となって、全児童で「赤い羽根募金」や「ペットボトルキャップ集め」に取り組んでいる。福祉委員会だよりで、ペットボトルキャップを集めの協力を求め、エコキャップ推進協会を通して、『ＮＰＯ法人世界の子どもにワクチンを日本委員会』へ寄付を行っている。６月２１日に、５２，８００個 のキャップを寄付した。今回で、累計３７０，８００個（４６３.５人分のポリオワクチン相当）を集めたこととなった。

募金活動やペットボトルキャップ集めの活動を通して、みんなで助け合うことの意義や大切さに気付くことができた。

カ　高齢者疑似体験・点字体験・車椅子体験・ブラインド体験・手話体験

４年生児童は、総合的な学習の時間における体験活動を通して、障害のある人や高齢者の気持ちになって考えられるようになってきている。また、互いに助け合っていこうとする気持ちを育むことができた。

３　成果

・　ありがとうカードに自分の思いを表現することで、周囲への感謝の気持ちを意識することができた。また、ありがとうカードや人権メッセージの掲示、人権啓発標語の作成、いじめ撲滅のスローガン作り等を通して、児童に互いを見つめる機会を設けることができた。児童は、互いの良さを理解し、思いやりの気持ちを持って接したり助け合ったりすることの大切さに気付くなど、人権問題、いじめ問題への意識を高めることができた。
・　様々な体験活動を通して､人との関わりを学び､お互いを認め合う機会をもつことができた。相手を思いやり、助け合おうとする豊かな心が育ってきた。

Ⅱ　今後の課題

・　各教科や道徳の時間など学校教育全体を通して人権に関する学習をより充実させ、児童一人一人の人権意識を高めるための取り組みを計画的・継続的に実践していきたい。